

2021/9/8-1

(うとQ世話し 自問)

まずは、会社員時代のお話しから。

会社員時代、小うるさい上司が部下の成長の芽を摘み、却って上司自身の評価を自ら下げる結果になっているケースを嫌というほど見てきました。

そして、どうせああたらかうたら言うのであれば、ことある毎に一々耳元でグチャグチャ言うのではなく、一通り見終わって結果を待って後、最後に頭上からその結果に対する超弩級のお叱りを受け、責任を取らされた方が余程マシな気がしました。

かてて加えて、

「そうまでおっしゃると言うことは、当然ご自分は完璧に100%おできになるんでしょね。達成して当然。いや、達成しない限りくそみそに言われるお覚悟もおありなんでしょね」

とも言いたい気分でした。当時。

そして余程

「バトンをお渡し致しますから、ご自分でやって見せてください、手本を見せてください。非の打ち所のない完璧なお手本を」

と言ってやろうかとも思いましたが、グツと我慢を致しました。

その経験以来、自分が反対にそう言われる可能性がある事に気づき

「もし、自分がそういわれたら出来るだろうか？」

と「言いたい放題相手に言う」前にそう自問をする事を覚えました。

そこまで出来そうもないなら何も言わない。

同じようなレベルでしか出来ないなら大抵のことは言わない。

もし、それ以上できる確信があれば代案を示して「ガツンとやる」

自分の事はすっかり棚上げしておいたり、そのお鉢は金輪際自分には回ってきっこないと高をくくったりして、言いたい放題相手に言うのはどうも好きではありません。

「笑ってごまかせ自分の失敗。あくまで罵しれ他人の失敗」

や

「自分がすればロマンス。他人がやれば不倫」

等の double standard を平然と立て、その矛盾には一切触れずに一方的に自らがその方面の一点非の打ち所のない「模範者」で有るかの如き態度に対して「恥知らず」と言いたくなる様な「無節操ぶり」が嫌なのです。

そうして「ならば、手本を見せてよ」と言われた途端、逃げたりそ知らぬ顔をしたりするその「厚顔無恥ぶり」も好きではないのです。

せめて

「それを言うからには自らの実力も知っておく」

自分の今の実態からして、相手にどれほどのレベルの要求をしているのか？

可能なことをいっているのか、無理でしかないことを言っているのか？

そう自問する事が大人として最低限の礼儀であり、且つ又実のある果実を得る建設的な態度だとも思うのですが。

どうなのでしょう。